

- ・不審者等に対する登下校時の安全確保として、現在も「子ども安全ボランティア」による見守り活動や、子どもが身の危険を感じた時に駆け込める「子ども110番の家」などがあります。こうした取り組みを踏まえながら、学校・家庭（保護者）・地域の皆さまとともに検討していきたいと考えています。
- ・通学については、なごや小のアンケートでも、当初、学校が遠くなることを心配していた子どもはいましたが、統合し、新校舎に変わった後は、多くの子どもは「心配がなくなった」と回答しています。回答の中には「学校まで遠くなったけど、遠くなった分だけ友達と話せるから楽しいです」という子どもの声や、「学校が遠くなって友達とおしゃべりして、とても楽しそうに家に帰ってくるようになった」という保護者の声もありました。なごや小の事例も参考にしながらこの地域の道路状況等を踏まえ、子どもたちが安全に、また安心して通学できるよう検討していきたいと考えています。

(3) 小 中 併設の学校運営

- ・小 中 併設ではどのような学校生活になるのか。小 中 併設ありきで進めていくのか。
- ・場所だけ一緒になるのか、カリキュラム等も変わるのか。
- ・小 と 中 が一緒になった場合、入学式や卒業式、部活動、トワイライトなどはどうなるのか。
- ・転 出 入 児童生徒への配慮はどうするのか。
- ・小 中 併設の不安として、いじめ等が進むのではないのか。長い期間、我慢する子どもが出てくるのではないのか。
- ・今後、小 中 一貫教育を名古屋市として推奨していくのか。今回はモデルケースとして行っているのか。
- ・人間関係（いじめ等）も含め、多様なことが低年齢化されてきている時代にあって、上の学年とどのように関わっていくのか。

教育委員会の考え方

- ・統合（案）では、小学校と中学校の併設という形でお示ししましたが、小 中 併設の場合には、同じ教育目標のもとに小学校・中学校それぞれの教職員が9年間を見通し、連携しながら教育活動を行う学校としていくことを想定しています。名古屋市では、笹島小学校・笹島中学校（以下あわせて「笹島小中学校」といいます。）がこのような形で運営されており、「小 中 一貫教育校」と呼んでいます。
- ・笹島小中学校では、校長は小学校長・中学校長を兼務していますが、それぞれの学校に教職員組織があり、連携しながら学校運営が行われています。小学校・中学校それぞれの教育課程があり、小学校の卒業式、中学校の入学式もあります。（この他に、修業年限を9年とする「義務教育学校」という校種の学校もありますが、現在名古屋市立

学校にはありません。9年間子どもたちが学校生活を送るという点では小 中 一貫教育校と似ていますが、1つの学校であるため、途中で卒業式や入学式は想定されていません。)

- ・ 笹島小 中学校では、小学校・中学校は同一校舎です。普通教室は小学校低学年・高学年・中学校とフロアを分けて利用しています。職員室は一つとなっており、小学校・中学校それぞれの教職員が情報共有を図りながら連携し、指導を行っています。同校では、①小学生、中学生の時間割が異なるため、小学生はチャイムで行動し、中学生は時計を見ながら行動する(学校によっては、チャイムを鳴らし分けているところもあると聞いています。)、②小学生と中学生と一緒に学校生活をする上で、時間割の違いなどもあるが、中学生は小学生がいることを前提としながら考え、行動できている、③運動会は小 中 合同で実施しているが、生徒会や集会などは小 中 で分けるなど、子どもの発達段階や教育上の効果を考慮しながら教育活動を行っている、④PTAは小 中 で一つの組織となっている、という形で学校運営が行われています。

- ・ 併設では、小学校・中学校がそれぞれ設置される形ですので、部活動やトワイライト、児童生徒の転出入については、基本的には他の学校と同じ考え方で行われています。

- ・ 小学校の統合を契機に9年間の子どもたちが通う学校として、今年度開校した他都市の義務教育学校に聞いたところ、学校生活の中で小学生に当たる学年の子どもが中学生に当たる学年の子どもから良くない影響を受けるようなことはなく、むしろ上の学年の子どもが小さい子の面倒をよく見てくれているとのことでした。また、仮に指導上の必要が生じた場合にも、指導に当たりやすい体制であるとのことでした。

- ・ 3つの小学校と森孝中の併設による小・中学校において、どのような学校運営を行っていくのかについては、3つの小学校・森孝中の教職員や保護者の皆さま等とともにステップ5において具体的に検討していきませんが、小 中 併設のよさが発揮されるような学校づくりをしていきたいと考えています。

- ・ 教育委員会では、通学距離等で特に有効と考えられる場合は、小学校と中学校を併設した形での統合を検討することとしています。併設による統合の場合には、そのメリットを活かした教育の充実に取り組みます。

- ・ 笹島小 中学校を始め小 中 併設における学校運営についてさらに詳しく知っていただけるような情報提供のあり方は、今後検討したいと考えています。

3 取り組みの進め方・スケジュールに関すること

- ・ 今後のスケジュールについて知りたい。過去の事例ではどれくらいかかったのか。
- ・ もっと意見交換する場があったらいいと思う。
- ・ 今日のような会は、次もあるのか。

- ・統合ありきに少々疑問を感じた。「説明会を持ちました」と逃げないでほしい。
- ・まちづくりの部署と連携して子どもを増やす方向性を考えることはできないのか。

教育委員会の考え方

- ・スケジュールは、小中併設の整備手法等の内容が決まった段階（ステップ3）でお示しいと考えていますが、小学校3校を統合したなごや小では、検討開始から新しい校舎で子どもたちが一緒に生活を始めるまでに6年ほどかかりました。笹島小中学校は、中学校の場所で、小学校2校の統合校と中学校を併設整備していますが、開校までに6年ほどかかっています。
- ・今回の説明・意見交換会はステップ1で実施したのですが、ステップ2において学識経験者等の意見を聞くプロセスを経た後、ステップ3（校舎等の整備計画やスケジュールを含む個別プランを保護者・地域の皆さまへ説明・協議する段階）を、令和2～3年度に実施できるよう検討していきたいと考えています。
- ・説明・意見交換会では時間が限られていたこと、またご参加いただくことができなかった方に向けて、「たより」を作成しました。保護者の方へは学校を通じての配付、地域の皆さまへは地域回覧をさせていただくとともに、市公式ウェブサイトでも情報提供いたします。なお、市公式ウェブサイトでは、今後とも随時、情報更新を行っていきます。
- ・これからさらに検討を進め、統合に向けた具体的なプランをお示ししたいと考えています（ステップ3）。その際には、今回と同様に説明会を開催し、ご意見、ご要望をお伺いしながら進めたいと考えています。
- ・小規模校では、新1年生の人数が、前年度5歳児であった子どもの人数を下回ることが多く、結果的に児童数が増えていかないという傾向があります。教育委員会では、小規模校を解消し、子どものよりよい教育環境を整備することにより、児童数の確保に向けて取り組みを進めたいと考えています。

4 跡地に関すること

- ・跡地の活用についてはどう考えているのか。
- ・本地丘小の自然林はすばらしいので、それも踏まえて跡地活用を考えてほしい。
- ・グラウンド等は防災の避難場所として残してほしい。
- ・防災訓練などで引き続き使えるのか知りたい。
- ・廃校後の跡地利用について住民の施設として残してほしい。
- ・建物の保管・管理について、使用しないことにより不具合の発見が遅れる可能性がある。非常時の際にトラブルが発生しないように対応してほしい。

教育委員会の考え方

- ・統合により使用しなくなる校地や校舎は、防災拠点等、地域の防災機能に配慮しながら、余剰となる資産の有効活用を全市的な視点で検討します。跡地となった旧施設の管理を含め、地域の皆さまのお声も伺いながら、検討したいと考えています。
- ・これまでの学校跡地は、インターナショナルスクール（西区の旧江西小）、会議室、シェアオフィス、イベントスペース等（旧那古野小）、コミュニティセンター等（中村区の旧新明小学校）、私立中学校（旧六反小学校）、中村区役所等複合庁舎（予定）（旧本陣小学校）、民間保育園及び公園、地域住民利用施設（予定）、サービス付き高齢者向け住宅（予定）等（旧亀島小学校）となっています。
- ・これまで統合により使用しなくなった校地や校舎は、いずれも指定避難所等となっており、地域の防災機能も確保されています。

5 その他

（1）トワイライト・学童保育

- ・トワイライトや学童保育はどうか。
- ・トワイライトスクールからトワイライトムールへの移行を強く希望する。

教育委員会の考え方

- ・トワイライトは小学校内を実施場所としていますので、現在3つの小学校それぞれで実施されているトワイライトは、統合校で実施されることになります。
- ・学童保育については、学校統合後も現在と同じ単位での活動が可能であることを関係部署に確認しています。
- ・統合を進めるにあたっては、皆さまからのご要望を含め子ども青少年局や区役所に情報提供を行いながら、連携していきたいと考えています。

（2）その他

- ・名古屋市の小学校給食がひどいとネット上で言われている。子どもも全然足りないと不満を感じている。給食費を上げて改善してほしい。

教育委員会の考え方

- ・本市の学校給食費は、平成21年度に改定して以来、11年間維持してきました。しかし、この間の食材価格の高騰により、これまでは、高い食材の使用を控えたり、安い食材に切り替えたりするなど、献立の対応により給食費を維持してきましたが、献立の工夫により給食内容を維持することが難しい状況となってきました。子どもたちにとって給食をより楽

しく魅力あるものとするために、多種多様な献立を提供するなど、給食内容の充実を図ることが必要と考え、令和2年4月から給食費を改定します。今後も安全・安心でおいしく、魅力的で、子どもたちにとって楽しい学校給食を継続して提供していきます。

「森孝西小学校の統合に関する説明 ・意見交換会」の開催結果だより

発行：令和2年6月

日時：令和2年1月29日（水）午後7時～
会場：森孝西小学校体育館

1 開催結果

令和2年1月29日（水）に森孝西小学校体育館で森孝中学校ブロックの保護者及び地域の方を対象とした「森孝西小学校の統合に関する説明・意見交換会」を行い、40人（保護者22人、地域住民18人）の方にご参加をいただきました。

市公式ウェブサイトでは、説明・意見交換会で配布した資料と開催結果のより詳細な内容をご覧くださいことができます。

<http://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/11-10-5-5-4-5-0-0-0-0.html>

※市公式ウェブサイトでは、他の会場の実施結果についてもご覧いただけます。



2 会場での主な意見・質問

- ・少人数の方がきめ細やかな指導ができ、子どものためになるのではないかな。
- ・統合の具体的なスケジュール感を知りたい。何年ぐらいで統合するのか。工事期間中、中学生はどのように過ごすのかも併せて知りたい。
- ・森孝中学校で小と中が一緒になると運動場が狭くなるのではないかな。校舎は建て替えるのか、改修するのか。
- ・小と中が一緒になった場合、どのような影響が考えられるか。
- ・森孝西小では体育館や運動場を地域が利用しているが、統合後も引き続き利用できるか。跡地の利用計画について知りたい。
- ・トワイライトも中学校で行われるのか。

3 教育委員会の考え方

- ・小学校では、子どもたちが集団の中で多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することが大切であると考えており、その教育効果を上げるためには、一定の学校規模が必要と考えています。
- ・スケジュールは、小中併設の整備手法等の内容が決まった段階（ステップ3）でお示ししたいと考えていますが、小学校3校を統合したなごや小では、検討開始から新しい校舎で子どもたちが一緒に生活を始めるまでに6年ほど、笹島小中学校は、中学校の場所で小学校2校の統合校と中学校を併設整備していますが、開校までに6年ほどかかっています。整備工事については、子どもたちの安全確保を第一に考えるとともに、中学生の学校生活への負担ができる限り小さくなるよう配慮しながら検討したいと考えています。

- ・統合（案）では、現在の森孝中の敷地を最大限活用し、効果的な空間利用を含めた整備手法を検討したいと考えています。このため、現在の校舎、体育館、格技場を含めた大きな整備工事が必要だと考えています。
- ・3つの小学校と森孝中の併設による小・中学校において、どのような学校運営を行っていくのかについては、3つの小学校・森孝中の教職員や保護者の皆さまとともにステップ5において具体的に検討していきますが、小中併設のよさが発揮されるような学校づくりをしていきたいと考えています。
- ・統合により使用しなくなる校地や校舎は、防災拠点等、地域の防災機能に配慮しながら、余剰となる資産の有効活用を全市的な視点で検討します。跡地となった旧施設の管理を含め、地域の皆さまのお声も伺いながら、検討したいと考えています。
- ・トワイライトは小学校内を実施場所としていますので、現在3つの小学校それぞれで実施されているトワイライトは、統合校で実施されることになります。

4 アンケートの主な意見・質問

- ・教育環境が良くなるのであればよいと思う。新しい建物や教材により学習できるようになるのであれば、勉強への意欲も向上する。学習環境がよければ、人も集まる。
- ・少子化が進んでいる以上、老朽化問題も含め統合することには賛成だが、新築するのであれば、魅力ある学校づくりをしてほしい。
- ・小学校の児童と中学校の生徒が一緒に過ごすことになるので心配（いじめ等）。
- ・PTA活動は、統合したことによりどのような変化があったのか知りたい。
- ・子どもが増える町づくりはしないのか。マンションをたてるなど、家族が住める場所を作るなど。
- ・校舎の設計は誰が中心になるのか。せっかく3校が一緒になるので、各小学校の代表者（児童3名から5名）が集まって、ほしいもの、こうやりたいなどのアイデアを形にしてはどうか。
- ・特別支援学級の設置は引き続きあるのか。

※ アンケートの意見・質問に対する教育委員会の考え方は、市公式ウェブサイトからご覧いただけます。

◆お問い合わせ先（事務局）

皆さまからのご意見やご質問を受け付けています。いただいたご意見・ご質問と教育委員会の考え方は、市公式ウェブサイトでも皆さまにお知らせしていきます。

名古屋市教育委員会事務局総務部教育環境計画室

Eメール：a3282@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

FAX：052-972-4176 TEL：052-972-4092

「森孝西小学校の統合に関する説明・意見交換会」の開催結果

令和2年1月29日（水）に森孝西小学校体育館で森孝中学校ブロックの保護者及び地域の方を対象とした「森孝西小学校の統合に関する説明・意見交換会」を開催しました。

当日、会場で発言していただいたご意見、アンケートに記載していただいたご意見とそれに対する名古屋市教育委員会の考え方をまとめました。

なお、ご意見の内容について、趣旨の類似するものはまとめさせていただいたほか、原文を一部要約し、また分割して掲載しておりますのでご了承ください。

日時：令和2年1月29日（水）19：00～20：20

場所：森孝西小学校体育館

参加人数：40人（保護者22人、地域住民18人）（森孝西36人、本地丘0人、森孝東4人）

区分	森孝西	本地丘	森孝東	合計
保護者	21人	0人	1人	22人
地域住民	15人	0人	3人	18人
合計	36人	0人	4人	40人

◆お問い合わせ先

皆さまからのご意見やご質問については、EメールまたはFAXで受け付けています。

名古屋市教育委員会事務局総務部教育環境計画室

Eメール：a3282@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

FAX：052-972-4176 TEL：052-972-4092

1 統合の必要性・学校規模の考え方に関すること

- ・少子化が進んでいる以上、老朽化問題も含め統合することには賛成だが、新築するのであれば、魅力ある学校づくりをしてほしい。他県では公立の小中一貫校で人気のある所は、わざわざ転居して通学を希望する人もおり、転入が増えている。そんな地域になるように願う。
- ・教育環境が良くなるのであればよいと思う。新しい建物や教材、ITの活用など新しい環境で学習できるようになるのであれば、勉強への意欲も向上すると思うのでできる限り早く統合してほしい。学習環境がよければ人も集まるのでは、と思った。
- ・少子化で3校の統合は残念だが、仕方ないと思う。親である私も森孝西小の卒業生なので淋しい。
- ・今日の説明資料は、小規模校の良さが3つしか書かれておらず、3学区にとってとても失礼だと思う。小規模校が悪くて大規模校がよいようである。

- ・少人数の方がきめ細やかな指導ができ、子どものためになるのではないか。
- ・1 クラスだからクラス替えができないというのではなく、例えば26 人でも13 人ずつのクラスで勉強できるよう名古屋市は予算をつけ、クラス替えをすればよい。
- ・小学校3 校のみの統合は考慮しないのか。できたら統合には反対の意向。
- ・統合校の教員はどう配置されるのか。

教育委員会の考え方

- ・小学校では、子どもたちが集団の中で多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することが大切であると考えており、その教育効果を上げるためには、一定の学校規模が必要と考えています。
- ・森孝西小学校（以下「森孝西小」といいます。）、森孝東小学校（以下「森孝東小」といいます。）、本地丘小学校（以下「本地丘小」といいます。）の3つの小学校では、それぞれ小規模校のよさを活かしながら保護者・地域の皆さまに支えられて学校運営が行われていると考えており、統合に向けては、3校それぞれの良さを引き継ぎ、さらに発展する形で、また施設面での充実等も図りながら新しい学校を創っていけるよう取り組んでいきます。
- ・本市では、小学校1年生・2年生での30人学級、小学校3年生以上は40人学級を基準とした学級編制を行っています。統合に向けては、この基準に基づき、全学年でクラス替えが可能となる12学級以上の学校規模にしていきたいと考えています。
- ・森孝中学校（以下「森孝中」といいます。）の場所での統合を選定した理由は、① 森孝中ブロックの小学校が全て小規模校であり、森孝東小と本地丘小の統合では12学級以上とならないこと、また森孝西小も今後、小規模校が解消される見込みがないこと。② 3つの小学校の統合を検討する上で、森孝中の場所が森孝中ブロックのほぼ中央に位置しており、徒歩を基本とする通学距離が、教育委員会が目安とする概ね2km以内となることです。なお、森孝東小での統合を想定した場合には、森孝西学区の最も遠い地点からの通学距離は2.2kmとなります。
- ・統合校への教員の配置に際しては、児童・生徒や保護者・地域等を理解した教育が継続できるよう、統合前の学校の教員をバランスよく配置できるようにします。

2 統合（案）に関すること

（1）通学距離・安全対策

- ・通学路について、今でも歩道がなく狭い道路があって危ない。統合した場合の通学路の安全対策について、スクールゾーンを設ける、時間帯規制するなど、どのようなことを考えているか。
- ・1.8 kmの通学距離を夏の暑い日に荷物を持って通学するのは、小学1年生にとっては相当な負担である。本地丘学区は坂もあるが、実際に歩いて確かめたか。
- ・スクールバスは検討するのか。
- ・学校が遠いことで不登校の子が増えそうに思う。

教育委員会の考え方

- ・統合により通学距離が長くなり、通学路もこれまでとは異なることとなりますので、子どもたちへの負担に配慮することや、安全面での対策を講じることは大変重要であると考えています。
- ・通学における子どもへの負担という点では、現在も各学校で登下校時の荷物の問題や熱中症への対策に取り組んでいますが、それぞれの取り組みを持ち寄りながら、新しい学校での対策について検討したいと考えています。
- ・通学路上の交通安全の確保については、学校での安全指導はもとより、警察・土木事務所など関係行政機関との連携や、家庭（保護者）・地域のご協力もいただきながら取り組みたいと考えています。
- ・なごや小学校（以下「なごや小」といいます。）の場合には、次のような安全対策の強化を図りました。① 狭い歩道へのガードパイプの設置、② 横断歩道の設置、③ 注意表示の設置、④ 歩行者先出信号の設置、⑤ 自転車専用レーンの設置、⑥ 青信号の時間延長、⑦ 道路へのカラー舗装、⑧ 通学練習会の実施
- ・不審者等に対する登下校時の安全確保として、現在も「子ども安全ボランティア」による見守り活動や、子どもが身の危険を感じた時に駆け込める「子ども 110 番の家」などがあります。こうした取り組みを踏まえながら、学校・家庭（保護者）・地域の皆さまとともに検討していきたいと考えています。
- ・通学については、なごや小のアンケートでも、当初、学校が遠くなることを心配していた子どもはいましたが、統合し、新校舎に変わった後は、多くの子どもは「心配がなくなった」と回答しています。回答の中には「学校まで遠くなったけど、遠くなった分だけ友達と話せるから楽しいです」という子どもの声や、「学校が遠くなって友達とおしゃべりして、とても楽しそうに家に帰ってくるようになった」という保護者の声もありました。なごや小の事例も参考にしながらこの地域の道路状況等を踏まえ、子どもたちが安全に、また安心して通学できるよう検討していきたいと考えています。
- ・本市では、小学校の通学は徒歩を基本とし、概ね2kmを目安としています。市内には通学距離が3kmを超える学校もありますが、スクールバスは運用していません。（特別支援学校でのみスクールバスを運用しています。）。3つの学区からはいずれもこの目安の距離を超えないことから、まずは子どもたちが徒歩で安全に、また安心して通学できる方策について検討したいと考えています。

（２）小中併設の学校運営

- ・統合して義務教育学校になるのか。
- ・9年間の義務教育学校にするわけでないなら、小中併設にしないでもいいのではないのか。

- ・小学校と中学校が一緒になった場合、どのような影響が考えられるか。例えば、中学生のテスト期間中に小学生が遊んでいると騒がしいなど。
- ・小学校と中学校が一緒になると同じ人間関係が9年間続くことになるので、かえってトラブルが増えることにならないか。
- ・小学校・中学校が統合された場合の部活動や行事は、小中合同なのか。
- ・学校行事は同じになるのか。どこまでが同じなのか想像できないので不安。
- ・小学校の児童と中学校の生徒が一緒に過ごすことになるので、そこが一番心配。いじめなど。
- ・名古屋駅周辺の学校とは違うので、学校が荒れた場合、小学生は荒れた中学生の影響を受ける。
- ・笹島小中の運営の状況を知りたい。チャイムなどはどうしているのか。
- ・笹島小中学校を具体例に出しているが、生徒数が違いすぎて、比較しての検討は無理があると思う。
- ・PTA活動は、統合したことによりどのような変化があったのか知りたい。小中併せてのPTA活動なのか、小学校のみ・中学校のみでのPTA活動になるのか。

教育委員会の考え方

- ・統合（案）では、小学校と中学校の併設という形でお示しましたが、小中併設の場合には、同じ教育目標のもとに小学校・中学校それぞれの教職員が9年間を見通し、連携しながら教育活動を行う学校としていくことを想定しています。名古屋市では、笹島小学校・笹島中学校（以下あわせて「笹島小中学校」といいます。）がこのような形で運営されており、「小中一貫教育校」と呼んでいます。
- ・義務教育学校とは、修業年限を9年とする小学校、中学校とは別の校種の学校ですが、現在名古屋市立学校にはありません。9年間子どもたちが学校生活を送るという点が共通していますので、今後、義務教育学校も参考に、小中一貫教育のあり方について検討していきたいと考えています。
- ・笹島小中学校では、校長は小学校長・中学校長を兼務していますが、それぞれの学校に教職員組織があり、連携しながら学校運営が行われています。小学校・中学校それぞれの教育課程があり、小学校の卒業式、中学校の入学式もあります。
- ・笹島小中学校では、小学校・中学校は同一校舎です。普通教室は小学校低学年・高学年・中学校とフロアを分けて利用しています。職員室は一つとなっており、小学校・中学校それぞれの教職員が情報共有を図りながら連携し、指導を行っています。同校では、①小学生、中学生の時間割が違うため、小学生はチャイムで行動し、中学生は時計を見ながら行動する（学校によっては、チャイムを鳴らし分けているところもあると聞いています。）、②小学生と中学生と一緒に学校生活をする上で、時間割の違いなどもあるが、中学生は小学生がいることを前提としながら考え、行動できている、③運動会は小中合同で実施しているが、生徒会や集会などは小中で分けるなど、子どもの発達段階や教育上の効果を考慮しながら教育活動を行っている、④PTAは小中で一つの組織となっている、という形で学校運営が行われています。
- ・小学校の統合を契機に9年間の子どもたちが通う学校として、令和元年度開校した他都市の義務

教育学校に聞いたところ、学校生活の中で小学生に当たる学年の子どもが中学生に当たる学年の子どもから良くない影響を受けるようなことはなく、むしろ上の学年の子どもが小さい子の面倒をよく見ているとのことでした。また、仮に指導上の必要が生じた場合にも、指導に当たりやすい体制であるとのことでした。

- ・3つの小学校と森孝中の併設による小・中学校において、どのような学校運営・PTA活動等を行っていくのかについては、3つの小学校・森孝中の教職員や保護者の皆さま等とともにステップ5において具体的に検討していきますが、小中併設のよさが発揮されるような学校づくりをしていきたいと考えています。
- ・笹島小中学校を始め小中併設における学校運営についてさらに詳しく知っていただけるような情報提供のあり方は、今後検討したいと考えています。

(3) 施設整備

- ・小学校の校舎と中学校の校舎は分かれているのか。敷地が同じだけで別々になっているのか。
- ・小学校と中学校が一緒になった場合、体育館などを共用するのか。
- ・森孝中学校で小学校と中学校が一緒になると運動場が狭くなるのではないのか。校舎は建て替えるのか、改修するのか。
- ・小学校・中学校の施設の運動場の区別等は。
- ・統合後のクラブ活動はどこで行われるのか。
- ・統合により校舎の改築・改修となっているが、既存の校舎を利用するのか。築40年以上となるため、耐震性能は大丈夫か。教室を増やすことで、耐震強度が下がるのではないのか。
- ・今の時代にあった少子化、温暖化、過疎化に対応していける学校施設を。
- ・校舎の設計は誰が中心になるのか。せっかく3校が一緒になるので、各小学校の代表者（児童3名から5名）が集まって、ほしいもの、こうやりたいなどのアイデアを形にしてはどうか。
- ・工事期間中、中学生はどのように過ごすのかも併せて知りたい。

教育委員会の考え方

- ・統合（案）では、現在の森孝中の敷地を最大限活用し、効果的な空間利用を含めた整備手法を検討したいと考えています。このため、現在の校舎、体育館、格技場を含めた大きな整備工事が必要と考えています。
- ・どのような校舎配置とするのか、体育館や特別教室などの利用形態をどうするのかについては、これから検討した上で、皆さまにお示ししたいと考えています。
- ・他都市の学校や笹島小中学校では、跡地となった小学校を中学校部活動等のため第二グラウンドとして利用している例もあります。こうした事例も参考としながら、施設整備の検討をしていきたいと考えています。

- ・整備に当たって子どもたちにアイデアを出してもらうというご提案については、参考にさせていただきたいと思います。
- ・整備工事については、子どもたちの安全確保を第一に考えるとともに、中学生の学校生活への負担ができる限り小さくなるよう配慮しながら検討したいと考えています。

3 取り組みの進め方・スケジュールに関すること

- ・今はステップ1との説明だったが、ステップ0に戻る、つまり計画がなくなることはあるのか。
- ・統合の具体的なスケジュール感を知りたい。何年ぐらいで統合するのか。また、体操着等の学校指定の用品は買い直しが必要になるのか。
- ・スケジュールの見通しを知りたい。
- ・令和2年度に森孝西小1年生になる子どもを持つ者にとって、この席のプランが具体的に早めに示してもらえると安心する。
- ・説明会を密にやってもらいたい。
- ・こういった意見を聞く会は、各学区、最低3回以上は必要ではないのか。
- ・意見交換会の意見は「たより」にするとのことなので、必ず、「たより」にまとめて配布してほしい。

教育委員会の考え方

- ・ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画では、小規模校をクラス替えのできる望ましい学校規模にしていくことを目指していますが、将来的に子どもの数が増え、クラス替えのできる規模となる可能性のある学校については、推移を見守り、取り組みの必要性を見極める必要があると考えています。こうした中で、森孝中ブロックの3つの小学校は今後も小規模の状態が続いていくと見込んでおり、森孝東小、本地丘小ではそれぞれ単学級のある状態が解消する見通しももてないため、小規模を解消するため、3つの小学校の統合を進める必要があると考えています。
- ・スケジュールは、小中併設の整備手法等の内容が決まった段階（ステップ3）でお示ししたいと考えていますが、小学校3校を統合したなごや小では、検討開始から新しい校舎で子どもたちが一緒に生活を始めるまでに6年ほどかかりました。笹島小中学校は、中学校の場所で小学校2校の統合校と中学校を併設整備していますが、開校までに6年ほどかかっています。
- ・今回の説明・意見交換会はステップ1で実施したのですが、ステップ2において学識経験者等の意見を聞くプロセスを経た後、ステップ3（校舎等の整備計画やスケジュールを含む個別プランを保護者・地域の皆さまへ説明・協議する段階）を、令和2～3年度に実施できるよう検討していきたいと考えています。
- ・体操着等の学校指定の用品については、ステップ5において、保護者・学校・地域の皆さまと協議していきたいと考えています。
- ・説明・意見交換会では時間が限られていたこと、またご参加いただくことができなかった方に向

けまして、「たより」を作成しました。保護者の方へは学校を通じての配付、地域の皆さまへは地域回覧をさせていただくとともに、市公式ウェブサイトでも情報提供いたします。なお、市公式ウェブサイトでは、今後とも随時、情報更新を行っていきます。

- ・これからさらに検討を進め、統合に向けた具体的なプランをお示ししたいと考えています（ステップ3）。その際には、今回と同様に説明会を開催し、ご意見、ご要望をお伺いしながら進めたいと考えています。

4 地域に関すること

- ・子どもが増える町づくりはしないのか。マンションを建てるなど家族が住める場所を作るなど。
- ・本地荘や香流荘はすぐ近くに保育園と小学校がある状態である。小学校が遠くになると若い世帯が入居しなくなり、市営住宅がゴーストタウンになる恐れがある。街が廃れてしまう。

教育委員会の考え方

- ・小規模校では、新1年生の人数が、前年度5歳児であった子どもの人数を下回ることが多く、結果的に児童数が増えていかないという傾向があります。教育委員会では小規模校を解消し、子どものよりよい教育環境を整備することにより、児童数の確保に向けて取り組みを進めていきたいと考えています。

5 跡地に関すること

- ・森孝西小では体育館や運動場を地域が利用しているが、統合後も引き続き利用できるか。跡地の利用計画について知りたい。

教育委員会の考え方

- ・森孝西小の施設は生涯学習開放を実施しており、地域の皆さまにご利用いただいています。
- ・統合により使用しなくなる校地や校舎は、防災拠点等、地域の防災機能に配慮しながら、余剰となる資産の有効活用を全市的な視点で検討します。跡地となった旧施設の管理を含め、地域の皆さまのお声も伺いながら、検討したいと考えています。

6 特別支援学級・トワイライトに関すること

- ・特別支援学級の設置は引き続きあるのか。
- ・トワイライトも中学校で行われるのか。
- ・トワイライトは1つになるのか。
- ・トワイライトにお迎えにくる親は、保育園とトワイライトの両方に行っており、かなり不便になる。

教育委員会の考え方

- ・現在、3つの小学校（中学校）において設置されている特別支援学級や、通級指導教室については、統合校にも引き継ぎ、設置するよう検討します。
- ・トワイライトは小学校内を実施場所としていますので、現在3つの小学校それぞれで実施されているトワイライトは、統合校で実施されることになります。
- ・統合を進めるにあたっては、トワイライトを所管する子ども青少年局に情報提供を行いながら、連携していきたいと考えています。

「森孝中学校における小学校の統合に関する説明・意見交換会」の開催結果だより

発行：令和2年6月

日時：令和2年2月1日（土）午前10時～
会場：森孝中学校体育館

1 開催結果

令和2年2月1日（土）に森孝中学校体育館で森孝中学校ブロックの保護者及び地域の方を対象とした「森孝中学校における小学校の統合に関する説明・意見交換会」を行い、47人（保護者38人、地域住民9人）の方にご参加をいただきました。

市公式ウェブサイトでは、説明・意見交換会で配布した資料と開催結果のより詳細な内容をご覧ください。

<http://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/11-10-5-5-4-5-0-0-0-0.html>

※市公式ウェブサイトでは、他の会場の実施結果についてもご覧いただけます。



2 会場での主な意見・質問

- ・中学校の場所に小学校を併設するとなると、敷地面積が狭く現実的ではないのではないか。森孝東小の場所で3小統合したほうがいいのか。
- ・通学距離はどのように計測したのか。通学安全への配慮について知りたい。
- ・どのような校舎になるのか具体的な整備内容が知りたい。
- ・スケジュールについて知りたい。
- ・笹島小中学校の保護者や子ども達の意見を知りたい。

3 教育委員会の考え方

- ・森孝中の場所での統合を選定した理由は、①森孝中ブロックの小学校が全て小規模校であり、森孝東小と本地丘小の統合では12学級以上とならないこと、また森孝西小も今後、小規模校が解消される見込みがないこと。②3つの小学校の統合を検討する上で、森孝中の場所が森孝中ブロックのほぼ中央に位置しており、徒歩を基本とする通学距離が、教育委員会が目安とする概ね2km以内となること、です。なお、森孝東小での統合を想定した場合には、森孝西学区の最も遠い地点からの通学距離が2.2kmとなります。
- ・通学距離については地図ソフトを用いて測りました。通学路上の交通安全の確保については、学校での安全指導はもとより、警察・土木事務所など関係行政機関との連携や、家庭（保護者）・地域の協力もいただきながら取り組みたいと考えています。
- ・現在の森孝中の校地の中で、施設の配置や整備を工夫しながら、小学校と中学校を併設することによるよさが発揮される学校となるよう検討していきたいと考えて

います。どのような校舎配置とするのか、体育館や音楽室などの特別教室の利用形態をどうするのかについては、これから検討した上で、皆さまにお示ししたいと考えています。

- ・スケジュールは、小中併設の整備手法等の内容が決まった段階（ステップ 3）でお示ししたいと考えていますが、小学校3校を統合したなごや小では、検討開始から新しい校舎で子どもたちが一緒に生活を始めるまでに6年ほどかかりました。笹島小中学校は、中学校の場所で小学校2校の統合校と中学校を併設整備していますが、開校までに6年ほどかかっています。
- ・笹島小中学校を始め小中併設における学校運営についてさらに詳しく知っていただけるような情報提供のあり方は、今後検討したいと考えています。

4 アンケートの主な意見・質問

- ・少人数学級は子どもに息苦しさを与える。固定したメンバーで逃げ場がない。たまたま集まった同学年の中に必ず気の合う人がいるとは限らない。
- ・統合は大賛成。すぐにでも前に進めていただきたいと思う。
- ・施設やグラウンドの共有に伴う不便さ、狭さの課題は、知恵を出し合って解決策を考えていけばいい。まずは「決めて」、進めていくべき。
- ・自分の子どもが小さいので、低学年時に小学校が移転してしまうと、通学にとっても心配である。
- ・小学生と中学生が一緒にいることのリスクもあるのではないかな。
- ・統合については特に反対はないが、歴史的経緯を踏まえて、森孝西小を天子田小に統合（大森中・森孝中も併せて検討）するということはないのか。
- ・時間をかけ意見の取りまとめをしないといけない問題ではないか。
- ・森孝中学校の横に住んでいる。改修工事等で騒音、ほこり等が心配。
- ・小中併設するという方向で進むのならば、実際に見学をして、子どもたちの生活の様子を知りたい。
- ・通学路が狭いので、その部分だけ安全に対する配慮をしてもらえば、後は賛成である。

※ アンケートの意見・質問に対する教育委員会の考え方は、市公式ウェブサイトからご覧いただけます。

◆お問い合わせ先（事務局）

皆さまからのご意見やご質問を受け付けています。いただいたご意見・ご質問と教育委員会の考え方は、市公式ウェブサイトでも皆さまにお知らせしていきます。

名古屋市教育委員会事務局総務部教育環境計画室

E メール：a3282@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

FAX：052-972-4176 TEL：052-972-4092

「森孝中学校における小学校の統合に関する説明・意見交換会」 の開催結果

令和2年2月1日（土）に森孝中学校体育館で森孝中学校ブロックの保護者及び地域の方を対象とした「森孝中学校における小学校の統合に関する説明・意見交換会」を開催しました。

当日、会場で発言していただいたご意見、アンケートに記載していただいたご意見とそれに対する名古屋市教育委員会の考え方をまとめました。

なお、ご意見の内容について、趣旨の類似するものはまとめさせていただいたほか、原文を一部要約し、また分割して掲載しておりますのでご了承ください。

日時：令和2年2月1日（土）10：00～11：15

場所：森孝中学校体育館

参加人数：47人（保護者38人、地域住民9人）（本地丘1人、森孝東13人、森孝西33人）

区分	本地丘	森孝東	森孝西	合計
保護者	1人	10人	27人	38人
地域住民	0人	3人	6人	9人
合計	1人	13人	33人	47人

◆お問い合わせ先

皆さまからのご意見やご質問については、EメールまたはFAXで受け付けています。

名古屋市教育委員会事務局総務部教育環境計画室

Eメール：a3282@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

FAX：052-972-4176 TEL：052-972-4092

1 統合の必要性・学校規模の考え方に関すること

- ・少人数学級は子どもに息苦しさを与える。固定したメンバーでは逃げ場がない。たまたま集まった同学年の中に必ず気の合う人がいるとは限らない。
- ・子ども同士は人数が多いと友達が増えてよいと思う。
- ・子どもが少なくなっているので、統合は仕方ないと思う。
- ・小規模校のメリットもあると思うので、クラス数だけが少ないのが問題とは限らないのではないかと。
- ・統合後も1クラスの人数を20人～30人ほどにしてほしい。40人クラスとなるとデメリットを感じる。

- ・望ましい学校規模についての根拠や検証が不十分である。海外では競い合うよりも少人数できめ細やかに対応できる方が望ましいとされている。
- ・なごや小のアンケートにおいて、20 人程度の子どもたちが、人数が増えたことによる否定的な意見を持っている。人数が多くなったことで教師が全体に目を通すことができないのであれば、小規模校存続と状況が変わらない。

教育委員会の考え方

- ・小学校では、子どもたちが集団の中で多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することが大切であると考えており、その教育効果を上げるためには、一定の学校規模が必要と考えています。
- ・教育委員会では、小学校では 12 学級以上を望ましい学校規模と考えていますが、国（文部科学省）においても平成 27 年に「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」が策定され、同様の考え方が望ましいとされています。
- ・小規模校には、「学校行事で活動の場を与えやすい」、「一人ひとりの子どもにきめの細かい指導がしやすい」といったよさがありますが、その一方で、「クラス替えができないことにより人間関係の固定化が生じやすい」、「体育の球技などの集団学習、班活動やグループ分けなどに制約が生じる」、また、「指導上課題がある子どもの問題行動にクラス全体が影響を受けやすくなる」といった課題などがあります。
- ・3 つの小学校が統合した西区のなごや小学校（以下「なごや小」といいます。）の子ども・保護者に対するアンケートでは、子どもたちは統合により「新しい友達ができうれしい」、「授業が楽しくなった」、「休み時間に遊ぶ友達や遊びの種類が増えた」、「行事（遠足や運動会など）で人数が増えて楽しくなった」、「たくさんの先生と話ができるのでよかった」といった声を多くいただいています。
- ・教育委員会では、本地丘小学校（以下「本地丘小」といいます。）、森孝東小学校（以下「森孝東小」といいます。）、森孝西小学校（以下「森孝西小」といいます。）それぞれの学校のよさを継承・発展させながら、子どもたちにとってよりよい教育環境にしていくため、どの学年でもクラス替えのできる規模が確保できるよう統合することが必要と考えています。
- ・本市では、小学校 1 年生・2 年生での 30 人学級、小学校 3 年生以上は 40 人学級を基準とした学級編制を行っています。統合に向けては、この基準に基づき、全学年でクラス替えが可能となる 12 学級以上の学校規模にしていきたいと考えています。
- ・なごや小のアンケートでは、クラスや学年の人数が増えたことについての質問に対し、2・3 年生では 8 人（全体の 6.8%）、4～6 年生では 16 人（全体の 8.3%）が、「クラスや人数が増えないほうがよかった」と回答しています。一方、「クラスや人数が増えてよかった」との回答は、2・3 年生で 92 人（全体の 78.6%）、4～6 年生で 144 人（全体の 74.5%）となっています。

2 統合（案）に関すること

（１）統合相手校・統合場所

- ・位置としては、森孝中の場所がほぼ中心になるのでよいと思う。
- ・小中一貫なのか別々なのか。小中併せての統合は決まった話なのか。小学校だけの統合案はないのか。
- ・学校の位置が中央といった距離だけではなく、他の事のほうがもっと大事かと思う。
- ・3 小学校だけ統合したらよいとの意見があるので、検討してほしい。3 つの小学校は統合したうえで、小学校・中学校は別でよい。
- ・中学校の場所に小学校を併設するとすると、敷地面積が狭く現実的ではないのではないか。森孝東小の場所で3小統合したほうがいいのかと思うが統合案は変わらないか。
- ・森孝東小で3校統合する案も検討してほしい。
- ・森孝西学区の端から森孝東小へも約2kmの通学距離に当てはまるのではないか。
- ・森孝中学校の施設改良をしてもらえるのなら、統合は賛成。別グループの意見で、まず、小学校だけの統合として、森孝東小に3校をまとめる案にも大賛成。意見を聞いていて、よくよく考えると、中学校と小学校では違うので、混ぜるのは色々無理があるように思えてきた。
- ・森孝中の場所に統合する小学校を配置し、森孝西小（森孝東小）の場所に森孝中を配置してはどうか。中学生は長い距離を歩ける。
- ・統合については特に反対はないが、歴史的経緯を踏まえて、森孝西小を天子田小に統合（大森中・森孝中も併せて検討）するということはないのか。一つの中学校の中でと考えているが、もっと範囲を広げて考えることが必要でないか。学区で中学校が分かれてもよいと思う。また、小学校区を再編成することもあり（森孝西学区を森孝と四軒家で分ける）かと。
- ・中学校の学級数が令和7年には6学級となる。下限となるが、この先のビジョンは。10年先を考え、中学校の統合も考えた案が知りたい。大きな投資をするので、場当たり的な投資とならない事を知りたい。
- ・今のペースで生徒数が減っていくと、10年くらいで2学級を維持できなくなるのではないか。
- ・区の枠を超えた検討で、通学距離を短くできると思う。

教育委員会の考え方

- ・森孝中学校（以下「森孝中」といいます。）の場所での統合を選定した理由は、① 森孝中ブロックの小学校が全て小規模校であり、森孝東小と本地丘小の統合では12学級以上とならないこと、また森孝西小も今後、小規模校が解消される見込みがないこと。② 3つの小学校の統合を検討する上で、森孝中の場所が森孝中ブロックのほぼ中央に位置しており、徒歩を基本とする通学距離が、教育委員会が目安とする概ね2km以内となることです。なお、森孝東小での統合を想定した場合には、森孝西学区の最も遠い地点からの通学距離は2.2kmとなります。
- ・令和7年度の森孝中の生徒数は200名程度と見込んでおり、3つの小学校が統合したと想定した場合の児童数400名程度と合わせ600名程度の児童・生徒数となる見込みです。現在の森孝中の校地

の中で、施設の配置や整備を工夫しながら、小学校と中学校を併設することによるよさが発揮される学校となるよう検討していきたいと考えています。

- ・森孝西小は昭和 55 年に天子田小学校（以下「天子田小」といいます。）から分離新設されました（天子田小は大森中学校ブロックです。）。本地丘小、森孝東小、森孝西小の 3 校は、昭和 56 年に開校した森孝中ブロックの小学校として 40 年にわたる歴史があり、森孝西学区もその中で地域活動が行われてきました。こうした経緯を踏まえ、また森孝中の今後の生徒数を見通し、統合（案）を作成しました。
- ・森孝中は令和 7 年度に 6 学級、生徒数は 197 人と見込んでおり、現在の本市での中学校の学級編制の基準（中学校 1 年生は 35 人学級、中学校 2・3 年生は 40 人学級）で見ても、クラス替えのできない学年が生じるということは、現時点では想定していません。

（２）通学距離・安全対策

- ・通学距離はどのように計測したのか。
- ・2 kmの基準そのものが、様々な地域の事情を加味して決められた厳し目の数値だと思う。
- ・自分の子どもが小さいので、低学年時に小学校が移転してしまうと、通学にとっても心配である。実際に家から歩いてきたが、坂もあるため、決して楽に来られる距離ではなかった。子どもの命にもかかわることがあるので、慎重に考えてほしい。
- ・保育園を卒園して、いきなり本地丘学区から森孝中まで歩くのはかなり無謀である。
- ・通学距離が長くなり通学路も変更することになるが、通学安全への配慮について知りたい。
- ・通学路の安全配慮について、他の学校とは状況が全く違うので、どのような配慮をするか具体的に考えてほしい。
- ・通学時の安全確保については、保護者に負担をかけることなく、行政・警察で協力して尽力していただきたい。
- ・森孝中学校の通学路で、北側の門から東へ向かう歩道がマンションの陰になって狭いことや、冬に雪が降ると凍ってしまい滑って転倒する危険がある。
- ・通学路が狭いので、その部分だけ安全に対する配慮をしてもらえれば、後は賛成である。

教育委員会の考え方

- ・通学距離については地図ソフトを用いて計測しています。
- ・教育委員会では、通学は徒歩を基本とし、小学校の場合の通学距離は概ね 2km を目安としています（国は小学校 4km としています。）。市内には 2.0km を大きく超えて通学する児童の在籍する小学校もありますが、ほとんどの小学校において 2.0km という目安の範囲内に収まっていることから、設定しました。
- ・統合により通学距離が長くなり、通学路もこれまでとは異なることとなりますので、子どもたちへの負担に配慮することや、安全面での対策を講じることは大変重要であると考えていま

す。

- ・通学における子どもへの負担という点では、現在も各学校で登下校時の荷物の問題や熱中症への対策に取り組んでいますが、それぞれの取り組みを持ち寄りながら、新しい学校での対策について検討したいと考えています。
- ・通学路上の交通安全の確保については、学校での安全指導はもとより、警察・土木事務所など関係行政機関との連携や、家庭（保護者）・地域のご協力もいただきながら取り組みたいと考えています。
- ・なごや小の場合には、次のような安全対策の強化を図りました。① 狭い歩道へのガードパイプの設置、② 横断歩道の設置、③ 注意表示の設置、④ 歩行者先出信号の設置、⑤ 自転車専用レーンの設置、⑥ 青信号の時間延長、⑦ 道路へのカラー舗装、⑧ 通学練習会の実施
- ・不審者等に対する登下校時の安全確保として、現在も「子ども安全ボランティア」による見守り活動や、子どもが身の危険を感じた時に駆け込める「子ども 110 番の家」などがあります。こうした取り組みを踏まえながら、学校・家庭（保護者）・地域の皆さまとともに検討していきたいと考えています。
- ・通学については、なごや小のアンケートでも、当初、学校が遠くなることを心配していた子どもはいましたが、統合し、新校舎に変わった後は、多くの子どもは心配がなくなったと回答しています。回答の中には「学校まで遠くなったけど、遠くなった分だけ友達と話せるから楽しいです」という子どもの声や、「学校が遠くなって友達とおしゃべりして、とても楽しそうに家に帰ってくるようになった」という保護者の声もありました。なごや小の事例も参考にしながらこの地域の道路状況等を踏まえ、子どもたちが安全に、また安心して通学できるよう検討していきたいと考えています。

（３）小中併設の学校運営

- ・小中一貫校となったとき、校長・教頭などは小中別になるのか。
- ・小学生と中学生が一緒にいることのリスクもあるのではないかな。
- ・小学校・中学校が一緒に過ごすことで安全面の確保だけはお願したいと思う。
- ・中学生のメリットが分からない。小学生と一緒に過ごすことになり、制限が増えるだけではないかな。
- ・統合後、中学校のテスト期間中に、小学校の活動に制限が出るのではないかな。
- ・小１と中３が一緒になることへの影響についての検証が不十分である。
- ・笹島小中をモデルにしているようだが、規模が全然違うために参考にならない面が多い。
- ・公立の学校に通う子どもを小中一貫の実験台にしないように。
- ・先生の人数の配置を統合した時は増やしてほしい。担任を持たずに全体を見る先生がほしい。
- ・笹島小中での課題及びその解決方法について聞きたい。
- ・笹島小中の保護者や子ども達の意見を知りたいので、アンケートなどがあれば内容を教えてほしい。

また、教員配置はどのようなになるのか。

- ・統合済の小学校について、保護者等のアンケートだけでなく、統合済の中学校についてもアンケートをしてほしい。
- ・統合した学校の校長やPTAの意見が聞けるとよい。
- ・小中併設校にするという方向で進むのならば、実際に見学をして、子どもたちの生活の様子を知りたい。

教育委員会の考え方

- ・統合（案）では、小学校と中学校の併設という形でお示ししましたが、小中併設の場合には、同じ教育目標のもとに小学校・中学校それぞれの教職員が9年間を見通し、連携しながら教育活動を行う学校としていくことを想定しています。名古屋市では、笹島小学校・笹島中学校（以下あわせて「笹島小中学校」といいます。）がこのような形で運営されており、「小中一貫教育校」と呼んでいます。
- ・笹島小中学校では、校長は小学校長・中学校長を兼務していますが、それぞれの学校に教職員組織があり、連携しながら学校運営が行われています（教頭は、小中それぞれに配置されています。）。小学校・中学校それぞれの教育課程があり、小学校の卒業式、中学校の入学式もあります。（この他に、修業年限を9年とする「義務教育学校」という校種の学校もありますが、現在名古屋市立学校にはありません。9年間子どもたちが学校生活を送るという点では小中一貫教育校と似ていますが、1つの学校であるため途中で卒業式や入学式は想定されていません。）
- ・小中一貫教育校では、「小から中への移行によって生じる子どもの心理的負担を軽減し、小中学校がスムーズに連携できる」、「小中学校の教職員の協同体制により、継続的に学習や生活指導ができる」というよさがあります。
- ・笹島小中学校では、小学校・中学校は同一校舎です。普通教室は小学校低学年・高学年・中学校とフロアを分けて利用しています。職員室は一つとなっており、小学校・中学校それぞれの教職員が情報共有を図りながら連携し、指導を行っています。同校では、①小学生、中学生の時間割が違うため、小学生はチャイムで行動し、中学生は時計を見ながら行動する（学校によっては、チャイムを鳴らし分けているところもあると聞いています。）、②小学生と中学生が一緒に学校生活をする上で、時間割の違いなどもあるが、中学生は小学生がいることを前提としながら考え、行動できている、③運動会は小中合同で実施しているが、生徒会や集会などは小中で分けるなど、子どもの発達段階や教育上の効果を考慮しながら教育活動を行っている、④PTAは小中で一つの組織となっている、という形で学校運営が行われています。
- ・小学校の統合を契機に9年間の子どもたちが通う学校として、今年度開校した他都市の義務教育学校に聞いたところ、学校生活の中で小学生に当たる学年の子どもが中学生に当たる学年の子どもから良くない影響を受けるようなことはなく、むしろ上の学年の子どもが小さい子の面倒をよく見てくれているとのことでした。また、仮に指導上の必要が生じた場合にも、指導に当たりや

すい体制であるとお話でした。

- ・3つの小学校と森孝中の併設による小・中学校において、どのような学校運営・PTA活動等を行っていくのかについては、3つの小学校・森孝中の教職員や保護者の皆さま等とともにステップ5において具体的に検討していきますが、小中併設のよさが発揮されるような学校づくりをしていきたいと考えています。
- ・中学生への小学校方式での給食の提供については、笹島小中学校（小学生は給食、中学生はスクールランチ）や他都市の状況を踏まえ、子どもたちや保護者の意見も伺いながら、今後検討していきたいと考えています。
- ・笹島小中学校を始め小中併設における学校運営についてさらに詳しく知っていただけるような情報提供のあり方は、今後検討したいと考えています。

（４）施設整備

- ・どのような校舎になるのか、具体的な整備内容が知りたい。校舎は小と中で一緒なのか別々なのか。
- ・現在の中学校の校舎はそのままなのか。また、グラウンドや体育館はどうなるか。
- ・中学の敷地内に9学年全員は難しいのでは。グラウンド、体育館棟の施設の使用は併用なのか。
- ・小と中が一緒だと、グラウンドの広さの問題が生じる。
- ・小学校3校を、森孝東小にて統合するのが無難だと思う。森孝中にすべて集めるのは、「敷地条件等で特に有効な場合」に全く当てはまらない。グラウンド、体育館など今の敷地では、小学校・中学校での使用は現実的ではないのではないか。部活の実施はどうするのか。今でも狭いと感じている。
- ・中学校の土地をこれ以上広げることができるのか。
- ・工事期間中の学校生活への配慮について知りたい。
- ・工事期間中はどのような影響が考えられるか。
- ・中学校の受験生に負担を与えないように改築工事を検討してほしい。
- ・森孝中学校の横に住んでいる。改修工事等で騒音、ほこり等が心配。

教育委員会の考え方

- ・統合（案）では、現在の森孝中の敷地を最大限活用し、効果的な空間利用を含めた整備手法を検討したいと考えています。このため、現在の校舎、体育館、格技場を含めた大きな整備工事が必要と考えています。
- ・どのような校舎配置とするのか、体育館などの利用形態をどうするのかについては、これから検討した上で、皆さまにお示ししたいと考えています。
- ・他都市の学校や笹島小中学校では、跡地となった小学校を中学校部活動等のため第二グラウンドとして利用している例もあります。こうした事例も参考としながら、施設整備の検討をしていき

たいと考えています。

- ・整備工事については、子どもたちの安全確保を第一に考えるとともに、中学生の学校生活への負担ができる限り小さくなるよう配慮しながら検討したいと考えています。
- ・整備工事に当たっては、近隣住民の方への影響にも配慮しながら、検討してまいります。

3 取り組みの進め方・スケジュールに関すること

- ・スケジュールについて知りたい。笹島小中ではどうだったのか。ステップごとのスケジュールがあれば併せて知りたい。
- ・全体的なスケジュールの案もなしには意見の出しようがない。
- ・統合は大賛成。すぐにでも前に進めていただきたいと思う。
- ・6年も先だと長すぎる感が強い。統合は早いほうがよい。
- ・施設やグラウンドの共有に伴う不便さ、狭さの課題は、知恵を出し合って解決策を考えていけばよい。まずは「決めて」、進めていくべき。小規模校の弊害を早く解消することが優先。
- ・統合するかどうかを決めた上で、サブグラウンドが必要などの意見を出し合えばいいのではないかな。
- ・時間をかけ意見の取りまとめをしないといけない問題ではないかな。
- ・まず、賛成か反対か皆の意見を聞いてほしい。賛成の場合も、小学校のみの統合か小中統合かもアンケートをとってほしい。
- ・実際に統合された側の当事者の意見や感想が聞きたい。子どもたちが、将来、この学区で子育てしたいと思われるようにしてほしい。
- ・おそらくこれは話が進んでいくのだと思う。保護者としてすべきことがあれば教えてほしい。
- ・統合についてどのような状況か聞けて良かった。
- ・説明については冊子を読んでいるだけで、こちらが知りたい情報に触れられなかった印象。

教育委員会の考え方

- ・スケジュールは、小中併設の整備手法等の内容が決まった段階（ステップ3）でお示ししたいと考えていますが、小学校3校を統合したなごや小では、検討開始から新しい校舎で子どもたちが一緒に生活を始めるまでに6年ほどかかりました。笹島小中学校は、中学校の場所で、小学校2校の統合校と中学校を併設整備していますが、開校までに6年ほどかかっています。
- ・今回の説明・意見交換会はステップ1で実施したのですが、ステップ2において学識経験者等の意見を聞くプロセスを経た後、ステップ3（校舎等の整備計画やスケジュールを含む個別プランを保護者・地域の皆さまへ説明・協議する段階）を、令和2～3年度に実施できるよう検討していきたいと考えています。
- ・説明・意見交換会では時間が限られていたこと、またご参加いただくことができなかった方に向けて、「たより」を作成しました。保護者の方へは学校を通じての配付、地域の皆さまへは

地域回覧をさせていただくとともに、市公式ウェブサイトでも情報提供いたします。なお、市公式ウェブサイトでは、今後とも随時、情報更新を行っていきます。

- ・統合における子どもや保護者のご意見については、なごや小アンケートをご覧ください。

4 地域に関すること

- ・地域の高齢者やボランティアの参加や力をつける方法も考えて、子どもの成長・教育に関わることが統合の成功につながるように思う。
- ・統合すると、PTAや地域のつながりが薄くなるのではないかと。今でもかなり意識の高くない地域である。子どもを守るための統合が、子どもを見捨てる統合にならないでほしい。

教育委員会の考え方

- ・なごや小では、子どもを守るために、地域の方の協力で交通指導が行われています。統合により3つの学区が一つの小学校とかわる形になりますので、学校と地域との関係が統合を契機に一層深めていくことができるよう新しい学校づくりに向けての協議を行う段階（ステップ5）では、関係する学校・学区の保護者・地域の皆さまとともに検討したいと考えています。

5 跡地に関すること

- ・跡地について、今後どのように活用するかを検証が不十分である。このような段階で説明会を開催しているが、様々な検証が不十分である。
- ・跡地の利用について、一部でもいいので保育園の送迎に利用できる駐車場としてほしい。

教育委員会の考え方

- ・統合により使用しなくなる校地や校舎は、防災拠点等、地域の防災機能に配慮しながら、余剰となる資産の有効活用を全市的な視点で検討します。跡地となった旧施設の管理を含め、地域の皆さまのお声も伺いながら、検討したいと考えています。

6 その他

（1）トワイライト・学童保育

- ・トワイライトスクールはどうなるのか。これを機にトワイライトルームになるとうれしい。
- ・森孝東学童保育所は、森孝東学区内で森孝東、森孝西、本地丘小の児童を受け入れている。統合にあたり、放課後も安心・安全に留守家庭児童が過ごせるよう、使用しなくなる校地を提供してほしい。

教育委員会の考え方

- ・統合を進めるにあたっては、トワイライトや学童を所管する子ども青少年局や区役所に情報提供を行いながら、連携していきたいと考えています。